万松寺
はくび通信
Year 2019年
Season 春号
No. 32

背戸窯 二十二代 加藤令吉展

4月28日（日）から5月5日（日）までの8日間、万松寺白龍館4階にて、日展などで幅広くご活躍されている瀬戸市出身の陶芸作家 加藤令吉氏の個展を開催します。加藤氏は、450年の歴史を持つ赤津焼の背戸窯の二十二代目として、古き良き伝統は踏襲しつつ、未来に向けて新たな釉薬（ゆうやく）や技術を日々追求されています。

加藤氏と万松寺は先代の頃から親交が深く、これまでに茶器や銘々皿など数多くの作品をご寄進いただきました。現在も、万松寺納骨堂の骨壷を創作していただくなどお力添えをいただいております。

そのようなご縁から初日と最終日は加藤氏に来廊いただき、作品に関する想いなどを語っていただくミニトーク会も開催します。

■赤津焼 × 曹洞宗

瀬戸物（せともの）の愛称で親しまれている愛知県瀬戸市名産の陶磁器「瀬戸焼」。

瀬戸焼の一つで平安時代末期の開窯と考えられる「赤津焼」は、鎌倉時代、加藤景正が曹洞宗開祖道元と渡った南宋で、陶器に釉薬を使うことを学び、帰国後に良質の土がある瀬戸で作陶を始めたことで転機を迎えます。当時の日本で唯一、多種多様な釉薬を使い分けた作陶の技術が赤津焼を発展させたといわれています。

瀬戸市にある曹洞宗 雲興寺（うんこうじ）の本堂や鐘楼の屋根は、赤津焼の瓦が使用されています。この雲興寺は、万松寺開山 大雲永瑞和尚が七世住職を務めたことから、織田家や豊臣秀吉、尾張徳川家の庇護を受けるなど万松寺ともゆかりのあるお寺です。

■加藤令吉 × 万松寺「骨壷」～終の棲家～

今回の個展では、加藤氏従来の作品に加え、万松寺と協力し創作した、現代的な骨壷の展示も行ないます。

現世において「住」は生活の基盤であり、また人生観を見出す大切なものです。

現世で安住の地となる住居を求めるのと同じように、人生の終焉を迎えた後、安らかに眠ることができる「終の棲家（ついのすみか）」を求めてもよいのではないでしょうか。

亡くなった後も、自分らしくまた故人らしく安らかに眠りついていただけるように、最期の安住の地として、加藤氏のユニークで現代的な発想で表現した「骨壷」～終の棲家～を創作していただきました。

「骨壷」～終の棲家～

【加藤令吉プロフィール】

1953年6月17日生まれ。慶長年間より代々陶業を営む背戸窯の二十二代目として生まれる。私立東海中学校・東海高校卒業、玉川大学文学部芸術学科陶芸専攻卒。現在は古典的な釉薬を使ったやきもの作りはもとより、公共空間や個人邸に多彩な色使いをした陶壁、モニュメント、オブジェ等の制作活動をする。

加藤令吉展

■4月28日（日）～5月5日（日）
■10時～17時
■会場：万松寺 白龍館4階
■入場無料
■展示即売会開催

初日と最終日は加藤令吉氏来廊。随時ミニトーク会あり。加藤氏の解説を聞きながら、作品をご覧いただけます。

僧侶が教える 仏教の豆知識

■「写経」のススメ

「写経」とは読んで字の如く「お経を書き写す」ことです。この写経の歴史は古く、日本書紀に「書生を聚めて、始めて一切経を川原寺に写す。」と記されています。これは673年、天武天皇の時代です。もともと写経とは、お釈迦様の教えを、広く後世に伝えるために経典を複製することが必要となり始まったともいわれています。日本においても、奈良時代に写経司（のちの写経所）という役所が設けられ、様々な経典の写経が行われていたことがわかっています。当初写経は仏道修行の一つとして行われていましたが、時代が進むにつれ、祈願や供養のために写経を行いお寺に納めると、功徳を得られるとして広く一般でも行われるようになったといわれています。近年では、ただひたすらにお経を書き写すという静寂な時間が、心にゆとりと安らぎをもたらすとして人気を呼んでいます。

よく「字が汚いのですが写経はできますか?」というご質問をいただきますが、写経を行うにあたっての必要な心構えは「きれいに」より「丁寧に」ということの方が大切です。

写経を行う目的は、修行のため、病気平癒などの祈願のため、故人を偲ぶ供養のため、自分自身の心の安らぎのためなど人それぞれ異なります。しかし、たとえ目的が違っても仏様の教えに触れるということに違いはありません。ですから写経を行う時は、心を落ち着け、1字1字向き合いながら丁寧に書き写すということが大切なのです。

また「書き終えたお経はどうしたらよいのか」というご質問もよくいただきます。せっかく気持ちを込めて書いたお経なので、そのままごみ箱などに捨てるのではなく、近くのお寺にお納めください。お経を納める場所として「納経処」と案内しているお寺もあります。万松寺では、お納めいただいたお経を昇龍焚き上げや護摩供養の際に合わせてご祈祷をさせていただいております。

その昔はお経を納めた印として御朱印が授与されていましたが、写経をする機会が少なくなった現在は、参拝の印として御朱印を授与するようになりました。

万松寺の仏教講座では、毎月第1土曜日の16時から写経会を行っております。写経の経典としてなじみの深い「般若心経」をはじめ「観音経」などの仏教の経典を心静かに書き写します。道具は一式揃っておりますので、初めての方もお気軽にご参加ください。

万松寺の仏教講座

坐禅会　毎週日曜日　9時～10時（定員：12名）

写経会　毎月第1土曜日　16時～17時半（定員：20名）

写仏会　毎月第2・4土曜日　16時～17時半（定員：20名）

仏教勉強会　毎月第3土曜日　16時～17時半（定員：20名）

会場　白龍館4F

講師　万松寺僧侶

参加費　500円

※受講は予約優先となります。
※行事により日程および会場が変更になる場合があります。

お申し込み・お問合わせ

WEB　万松寺 仏教講座 検索

電話　052-262-0735

これからの行事

大終活フェア

5/2(木) 5/3(金) 5/4(土) 5/5(日)

10時～16時

万松寺では月に一度終活講座を行っています。5月は、「大終活フェア」として、専門家や住職によるセミナーをはじめ、相続・葬儀・墓じまい・納骨堂など各相談コーナーでの個別相談、実際の葬儀会場で僧侶が解説する模擬葬儀を行います。期間中はそのほかに、葬儀会場、加藤令吉氏創作の骨壺、絆画（きずな）の常設展示、万松寺見学会、メモリアルフォト撮影、写仏や写経の体験コーナーなど気軽にご参加いただける催しを行います。

春期不動明王大祭

5/28(火)

10時～

身代不動尊のご真前にて災難消除、病気平癒、無病息災、身体健全、交通安全、家内安全の祈祷を行います。

※行事予定は変更となる場合があります。詳しくは万松寺までお問い合せください。

身代不動明王縁日

毎月28日 開催

●身代わり餅つき18時～●

祈祷・供養 随時受付

行事・祈祷・供養のお問合せ・お申込みは

祈祷受処または

052-262-0735

（年中無休　9時～20時）にて承ります。

住職の小噺

■オレンジ色の魂【第一章】
～病は「気」から～

昨年、はくび通信でお経と魂（エネルギー）についてお話しさせていただいたところ、「丸い形の魂とは？」「きれいな形にどうしたらなれるのか？」といったご質問をいただくようになりました。そこで、今回のはくび通信から、私が万松寺の住職や鍼灸師として、人の死や東洋医学に触れたり、また多くの人との関わりの中で感じた「魂」について、数回に分けてお伝えしていきたいと思います。

まず、第一章では「魂」を語るには切っても切り離せない「気」、そして年齢を重ねるごとにかかりやすくなる「病」との関係についてお話していきたいと思います。

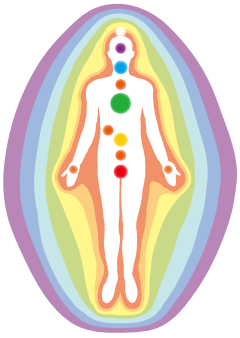
人を含め、生き物は様々な病気にかかりますが、病気になりやすい人となりにくい人がいるとは思いませんか？

これには、生き物に備わっているウィルスや菌から自らを護る「免疫」という仕組みが関係しています。この免疫によって、自ら治せるものは治し、それが叶わぬ場合は駆逐されていくのです。例えば、最近ニュースを賑わした豚コレラ。これはトンコレラウィルスという猪や豚に感染する熱性の感染病ですが、同じ場所にいた猪や豚がすべて感染したわけではありません。人間の例でいうと、今年も猛威をふるったインフルエンザ。ワクチンを打ったのにも関わらず発症したという人や、二度発症したという人がいる中で、ワクチンやマスクなど予防をしていないのに発症しないという人もいます。これらを分ける原因は、外敵から身を護るための「免疫低下」にあります。

一方で病気には「血行不良」から起こる、胃潰瘍や癌、腎機能低下、躁うつ病などの「臓器の病」もあります。いずれの病気も、身体の内側を流れるリンパや血液が関係しています。

それでは本題。身体の内側の流れと「気」の関係に着目していきます。

昔からの言い伝えで「病は気から」という言葉がありますが、この言葉の本当の解釈を皆さんはご存知ですか？この言葉の「気」とは「気持ち」を指す「気」ではなく、身体に宿り流れている見えない力を指す「気」を指しているのです。



この「気」が、「エネルギー」となり、時には「魂」にも成りうるのです。

ひとくちに「気」といっても「気」には多く種類がありますので、基本となる代表的な二つの「気」を紹介します。一つは先祖からもらった「先天の精」と言われる「気」の源です。これは、生涯を通して少しづつ弱まっていく「気」です。もう一つは「後天の精」と言われるエネルギーと感じる「気」です。これは人や自然との関わり、また食事などから得ることのできる「気」になります。動物や植物など全ての生き物には「気」が宿っているため、食べ物を食べると、含まれる栄養に加え「気」をいただいていることになります。私たちが食事の前に合掌し、「いただきます。」と言うのは「命」ひいては「気」を頂戴しますという意味なのです。

先祖からもらった「気」と食事などで得た「気」は、私たちの身体の臓器・筋肉・皮膚などあらゆるところに宿ったり、またその間を流れたりしています。

「気」と同じように、身体のあらゆるところを流れるものとして血液が挙げられます。しかし、私はどうも握りこぶしほどの大きさしかないこの心臓という名のポンプだけで、身体の末端まで血液を運べるとは思えないのです。血液の流れは、単に心臓のポンプ作用だけではなく「気」というエネルギーの仕業がかなり影響しているのではないかと思うのです。ですから、私は「気」が流れなくなった先の臓器は十分な血液の流れがなくなり「病」になりやすいのではないか、つまり「病は気から」と解釈しています。

現代病と呼ばれる病気が、公害病、生活習慣病、呼吸器疾患、高血圧、心臓病、動脈硬化、消化器疾患、癌、不眠症、情緒障害、神経疾患、ポックリ病（青壮年急死症候群）、花粉症、化学物質過敏症などたくさんあります。皆さんの身の回りで耳にしたことはありませんか？これだけ医療が発達したにも関わらず、回復へとつながる治療方法の発見が遅々として進んでいないという気がするのは私だけでしょうか？それどころか、何やら多くの病名が増えている気さえします。

次回からはなぜ「気」が流れなくなってしまうのか、また自分はもちろん大切な人が「気」を身体中に巡らせ、病気にかからず健康に過ごしていくために、私たちができる「気」との上手い付き合い方を、様々なケースから解き明かしていきたいと思います。

合掌

万松寺住職
大藤　元裕

大人の寺子屋
～万松寺住職との気楽なお茶会～

講師　万松寺住職

参加費　３００円（お抹茶・お菓子付き）

開催日
- ■5月12日（日）
- ■6月1日（土）
- ■7月13日（土）
- ■8月4日（日）
- ■9月15日（日）
- ■10月13日（日）
- ■11月10日（日）

時間　10時半～12時（受付　10時～）

会場　白龍館４F

詳しくは万松寺のWEBサイトもしくはお電話にてご確認下さい。

お申し込み・お問合わせ

WEB　万松寺 大人の寺子屋 検索

電話　052-262-0735

万松寺日記

✤節分会

■平成31年2月3日（日）
今年は「厄除け豆まき祈祷」「星祭」に加え、武蔵川親方（元横綱武蔵丸）をゲストにお迎えし「特別厄除け豆まき祈祷」も行いました。昨年同様、白龍館の2階より盛大な開運豆まきを行い、大いに賑わいました。

✤涅槃会

■平成31年2月15日（金）
お釈迦様が沙羅の木の下で入滅（亡くなること）された日に、威徳を偲び報恩感謝の法要を営みました。

✤信秀忌

■平成31年3月3日（日）
3月3日は織田信長公の父であり、万松寺を開いた織田信秀公の祥月命日に、威徳を偲び追悼法要を営みました。

✤災害物故者追悼法要

■平成31年3月10日（日）
未曽有の災害となった東日本大震災から8年。その間も日本だけでなく世界各地で災害が発生し、多くの命が犠牲となりました。
このような状況を踏まえて、今年からは災害で犠牲となられた多くの命を悼み偲ぶ追悼供養、並びに被災された方々の心と身体の健康と一刻も早い復興を祈願しご祈祷する「災害物故者追悼法要」として営みました。
併せて万松寺職員による災害を想定した炊き出し訓練を実施しました。

✤初午会

■平成31年3月10日（日）
白雪稲荷様のご真前にて、商売繁盛、金運上昇などのご祈祷を行ないました。

✤春彼岸合同法要

■平成31年3月22日（金）
3月23日（土）
万松寺納骨堂に安置させていただいている故人の霊位を懇ろに供養させていただきました。

✤花まつり（降誕会）

■平成31年4月7日（日）
お釈迦様が花園でお生まれになった4月8日の降誕会を祝し、境内に祀られた誕生仏に皆様から甘茶をかけてお参りをしていただきました。また、参詣の皆様のご多幸を祈願するご祈祷を行いました。

選ばれ続ける3つの理由
1 由緒ある寺院による安心の永代供養
2 天候に関わらずお参りができる快適な屋内施設
3 地下鉄「上前津」駅徒歩3分の便利な立地
0120-157-942
または万松寺総合受処まで